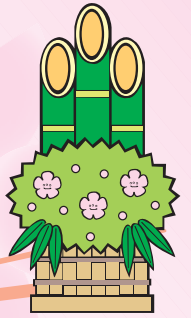


# 年頭のご挨拶



錦江町長  
野元良一

新年明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族お揃いで新年を迎えられたことと思います。

心からお祝い申し上げます。  
新生錦江町として2年9ヶ月余りが経過いたしました。錦江町新町建設の理念であります「あふれる自然・こころ豊かな町」の理念が大きく息吹き始めたことは、町づくりに対する町民の一体感の醸成の賜物であります。

この間、本町行政が順調に推移いたしていることは、町民の皆様方のご理解とご協力の賜物と厚く感謝申し上げます。

我が国の社会経済情勢は「いざなぎ景気」に勝る景気拡大と言われておりましたが、このところ、景気拡大の勢いが鈍り、景気の足踏みにより、今年前半は弱い成長となりました、後半持ち直すと言われておりますので期待される所です。

しかし、景気回復とは裏腹に都市と地方との格差がますます拡大し、地方の将来が危惧され

ております。

今まで、日本が経験したことのない少子・高齢化の進行する社会状況の中、国の財政難の下、平成20年度より後期高齢者医療制度が始まる等、社会福祉部門に対する自己負担が重くのしかかる時代となっていくことに不安を感じている所です。

このように、大変厳しい時代を迎えている中で、地方自治体における第一の課題は、財政難のもとに進めている行政改革の所です。このことについては目標に向かって努力して参りますので、町民の皆様方にご理解とご協力をお願い申し上げます。

次第であります。  
昨年は異常気象により早い時期に台風が襲来し、74年ぶりに最高気温が更新され、また真夏日が10月まで続いたことにより、農作物に多大な被害を与えました。被害を受けられた町民の皆さんに遅くなりましたが心よりお見舞い申し上げます。

我が国の農業環境は一向に改善されないまま、新年を迎えております。

このような中、我が町の基幹産業である農林水産業は、異常気象による不作・外圧による価格の低迷、さらに原油高騰によ

るコスト高、葉たばこについては10年来の2年連続の不作となり大変厳しい年となりました。

また、農業就労者の高齢化と後継者難で先が見えない将来に深刻な悩みを抱えております。

最近多くの食料品において、消費者の信頼を裏切る事件が頻繁に発生しており、これに伴い消費者の「食」に対する「安心・安全」に厳しい目が向けられるようになりました。

よって、私の農業マニフェストのとおり、錦江町の産物に「安心・安全」の付加価値を高めるためのシステムを早く構築し、日本一安心・安全な物づくりに取り組んでいきたいと考えております。そして、日本一安心・安全な物づくりができるようになったら、日本一高く販売できるようにしたいと思っております。

日本一高く販売できるようにならしましたら、その一部を高齢者のための基金造成をお願いし、高齢者が楽しい余生が送れるような町にしたいと思っております。

そのための情報発信の場として「にしきの里」を建設し、錦江町の情報を発信し、全国に誇れる農業の町を目指している所です。

「にしきの里」の会員をはじ

め、関係者のご尽力によりまして、一昨年に引き続き昨年も売上げが順調

に伸びてきております。また、さらにいろいろな情報が入手できるようになりましたので、これらの情報を有効活用し、町の活性化に生かせるよう取り組んで参りたいと思っております。

一部昨年と同じことを述べましたが、私のこの想いを町民の皆様にご理解いただきたいという気持ちからですので、ご了承いただきたいと思います。

林業につきましては、昨年と同様外材の価格が上昇していることと、また、国内の木材業者が国内産へ大きくシフトしていることなどから、一朝一夕にはいきませんが、今後情勢が好転していくものと期待している所です。また、引き続き、公益的・多面的機能を高め、除間伐推進と特用林産物の推進に努めて参ります。

漁業につきましては、作り育てる漁業を主体に引き続き魚礁設置事業を導入し、その効果に期待している所です。

商工業につきましては、大型店の進出に加え、24時間営業という商法により地元商店は沈滞

